商工会議所ＬＯＢＯ（早期景気観測）
－－平成１６年３月調査結果－－

（平成１６年３月３１日）

○調査期間：平成１６年３月１８日～２４日

○調査対象：全国の４０２商工会議所が２５７０業種組合等にヒアリング
（内訳）建設業　３８２　製造業　６２９　卸売業　２３０
小売業　７３４　サービス業　５９５

○調査項目：今月の売上・採算・業況等についての状況（ＤＩ値を集計）
及び、業界として当面する問題等

※　ＤＩ値について

ＤＩ値は、売上・採算・業況などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

ＤＩ＝（増加・好転などの回答割合）－（減少・悪化などの回答割合）
業況・採算：（好転）－（悪化）　　売上：（増加）－（減少）

日本商工会議所

本件担当：産業政策部　TEL:０３－３２８３－７８４３
E-Mail:sangyo@jcci.or.jp

なお、本調査結果は日商ホームページ(http://www.jcci.or.jp)でもご覧になれます。

【平成１６年３月調査結果のポイント】

依然、景況に不安材料が残るも、業況ＤＩは３カ月連続で改善

○　３月の景況をみると、全産業合計の業況ＤＩ（前年同月比ベース、以下同じ）は、前月水準（▲３３．３）よりマイナス幅が３．１ポイント縮小して▲３０．２となり、３カ月連続でマイナス幅が縮小した。

業種別の業況ＤＩは、卸売を除く４業種でマイナス幅が縮小したため、全産業合計の業況ＤＩもマイナス幅が縮小した。業況は好調との声はあるものの、依然ＤＩ値は低水準で、中小企業の足元には景況の停滞感が残っている。景気の先行きについても、回復に期待するとの声の一方、公共事業の縮小や消費の低迷のほか、ＢＳＥ（狂牛病）や鳥インフルエンザの発生、素材価格の高騰などによる仕入コスト上昇などの、不安材料を懸念する声が寄せられている。

【建設業】では、「年度末になり受注回復を期待していたが、一部の業種で少し増えたのみで、大多数の業種は受注減となっている」（建築工事）、「昨年度から売上が１/３に減少し、来年度公共事業予算も見通しは今年度並みと予想」（一般工事）と引き続き厳しい状況を訴える声が寄せられており、「資材価格急騰の動きがあり、民需への影響が懸念される」（建築工事）と、仕入コスト上昇の悪影響を懸念する声も寄せられている。

【製造業】では、「前月に続き回復基調にある」（有機化学製品）、「デジタルカメラ関係で、新製品の生産が見込まれる」（電子部品）と、業況は好調との声の一方、「海外での生産増加により、国内の生産、販売が低迷しており、新分野への進出も思うようにできない状況で雇用も過剰気味」（金物類）と、海外製品との競争激化や、「材料の値上がり分を納入価格に転嫁できない」（金属加工機械）と仕入コスト上昇により採算が悪化との声が寄せられている。

【卸売業】では、「卒業、入学シーズンに入り業況は好転」（食料・飲料）といった声の一方、「まだ景気が上向いている実感が得られない」（衣服、日用品）、「素材や原材料の値上がりが続くと思われ、今一番の懸念材料となっている」（各種商品）といった声が寄せられている。また、「牛肉、鳥肉等の食肉の安全性問題がおさまれば、消費は伸びると思われる」（各種商品）とのコメントも寄せられている。

【小売業】では、「春物衣料や新入学用品の好調により売上が増加し、明るい兆しが見える」（百貨店）、「ホワイトデーはバレンタインデーに引き続き有名ブランドを中心に人気が集まり、大きく売上を伸ばすことができた」（百貨店）といった声の一方、「店舗によって売上に差は見えるものの、全体的にはほぼ例年並みで、来客数はわずかに増えてきているように感じるが、個人消費が回復するまでには、まだ時間がかかるように感じる」（百貨店）との声が寄せられている。

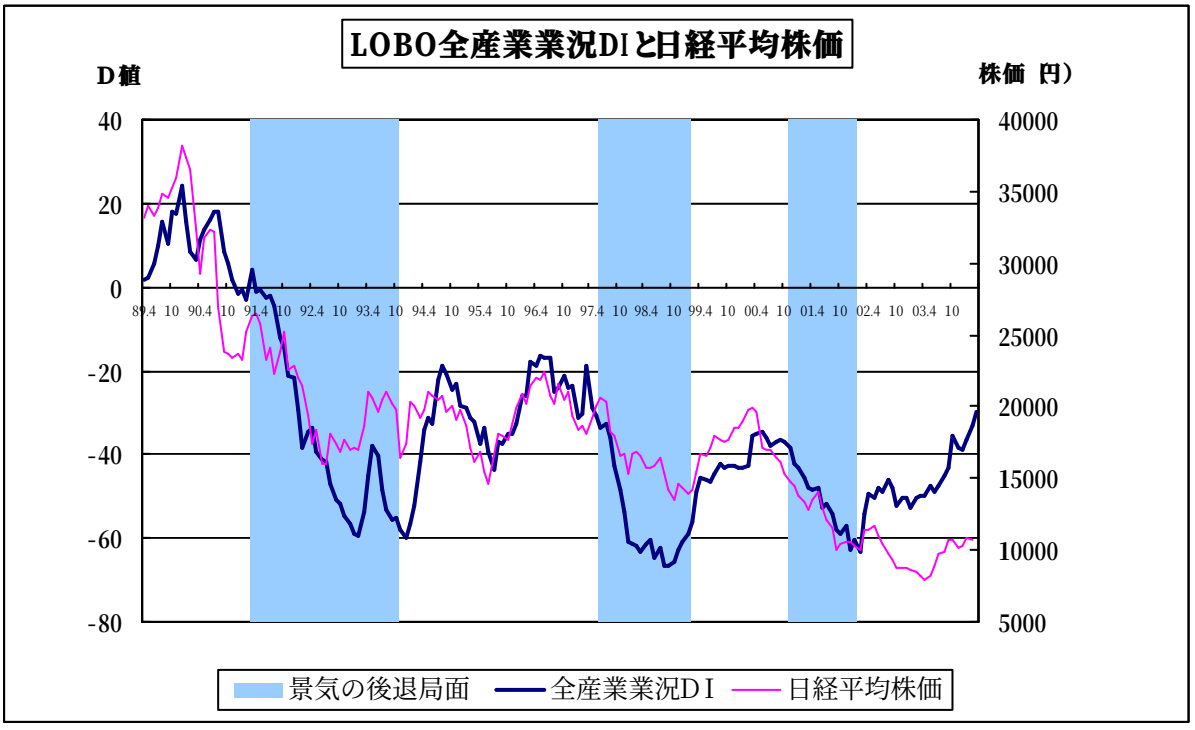
【サービス業】では、「ＩＴ関連業界を中心に事務系人材の派遣需要が強まってきており、工場からの依頼も発生している状況」（人材派遣）、「３月に入って観光客や歓送迎会の客が増えてきて、業界全体に持ち直しの兆しが見えてきたような感がある」（食堂、レストラン）との声の一方、「客足は遠のいており、今後、桜の開花に合わせ、観光客の入り込みに期待している」（一般飲食店）、「団体客の入り込みは多くなっているが、低単価で稼働率を上げているだけで採算は厳しい」（旅館）との声が寄せられている。

売上面では、ＤＩ値のマイナス幅は建設、製造を除く３業種で前月水準より縮小したため、全産業合計の売上ＤＩは４．８ポイント縮小して▲２６．７となり、４カ月連続でマイナス幅が縮小した。

採算面では、ＤＩ値のマイナス幅は製造を除く４業種で前月水準より縮小したため、全産業合計の採算ＤＩは２．２ポイント縮小して▲３１．４となり、２カ月ぶりにマイナス幅が縮小した。

○　向こう３カ月(４月～６月)の先行き見通しについては、全産業合計の業況ＤＩ（今月比ベース）が▲２４．８と、昨年同時期の先行き見通し（▲４５．７）と比べて改善している。

○　景気に関する声、当面する問題としては、業況は好調との声の一方、公共事業の縮小や消費の低迷などを訴えるコメントが依然として寄せられており、ＢＳＥや鳥インフルエンザの発生のほか、特に素材価格の高騰による仕入コストの上昇に関するコメントが多く見られた。



【業況についての判断】

○　３月の景況をみると、全産業合計の業況ＤＩ（前年同月比ベース、以下同じ）は、前月水準（▲３３．３）よりマイナス幅が３．１ポイント縮小して▲３０．２となり、３カ月連続でマイナス幅が縮小した。

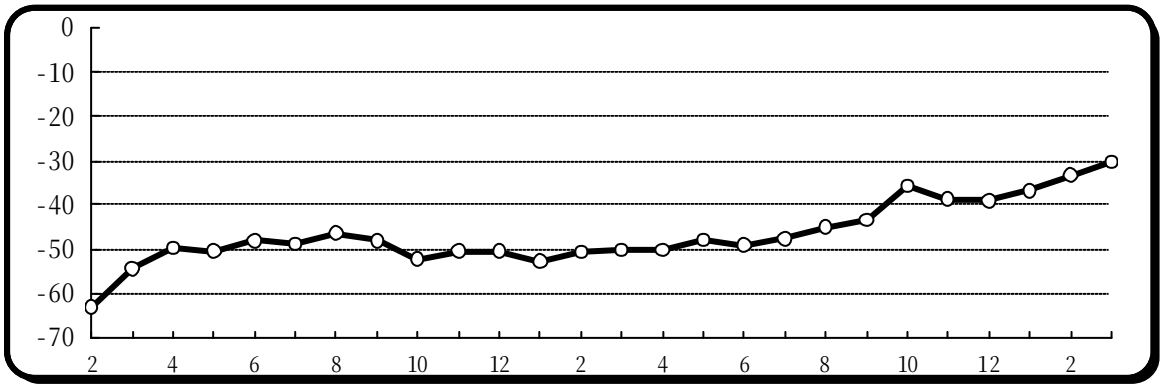
○　向こう３カ月(４月～６月)の先行き見通しについては、全産業合計の業況ＤＩ（今月比ベース）が▲２４．８と、昨年同時期の先行き見通し（▲４５．７）に比べて改善している。

業況ＤＩ（前年同月比）の推移

	１５年１０月	１１月	１２月	１６年１月	２月	３月	先行き見通し４～６月
全産業	▲ 35.8	▲ 38.7	▲ 39.0	▲ 36.8	▲ 33.3	▲ 30.2	▲ 24.8 (▲ 45.7)
建設	▲ 53.6	▲ 54.4	▲ 55.6	▲ 55.3	▲ 55.5	▲ 54.8	▲ 49.1 (▲ 64.1)
製造	▲ 24.6	▲ 23.0	▲ 18.9	▲ 21.5	▲ 18.1	▲ 14.9	▲ 19.2 (▲ 43.9)
卸売	▲ 36.5	▲ 40.7	▲ 53.7	▲ 36.1	▲ 30.4	▲ 31.3	▲ 13.9 (▲ 39.4)
小売	▲ 34.1	▲ 47.8	▲ 45.6	▲ 41.6	▲ 36.0	▲ 31.7	▲ 23.3 (▲ 41.7)
サービス	▲ 38.0	▲ 33.3	▲ 35.9	▲ 35.6	▲ 32.9	▲ 27.9	▲ 20.5 (▲ 42.7)

※「先行き見通し」は当月に比べた向こう３カ月の先行き見通しＤＩ
（　）内は昨年３月の先行き見通しＤＩ＜以下同じ＞

《業況ＤＩ（全産業・前年同月比）の推移》



【売上（受注・出荷）の状況についての判断】

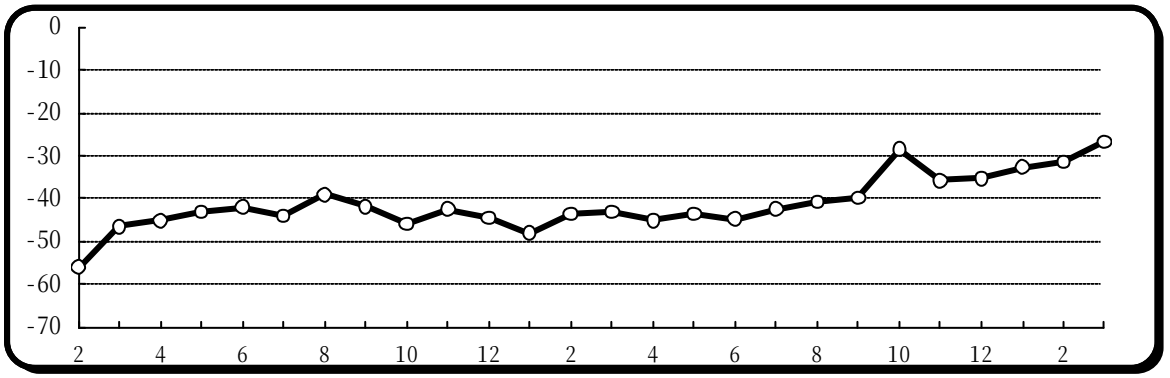
○　売上面では、ＤＩ値のマイナス幅は建設、製造を除く３業種で前月水準より縮小したため、全産業合計の売上ＤＩは４．８ポイント縮小して▲２６．７となり、４カ月連続でマイナス幅が縮小した。

○　向こう３カ月(４月～６月)の先行き見通しについては、全産業合計の売上ＤＩ（今月比ベース）が▲２１．２と、昨年同時期の先行き見通し（▲３８．６）に比べて改善している。

売上（受注・出荷）ＤＩ（前年同月比）の推移

	１５年 １０月	１１月	１２月	１月	２月	３月	先行き見通し ４～６月
全産業	▲ 28.5	▲ 35.8	▲ 35.3	▲ 32.7	▲ 31.5	▲ 26.7	▲ 21.2 (▲ 38.6)
建設	▲ 41.6	▲ 47.4	▲ 48.2	▲ 51.8	▲ 46.4	▲ 49.3	▲ 47.3 (▲ 56.8)
製造	▲ 14.2	▲ 17.4	▲ 13.1	▲ 14.1	▲ 11.1	▲ 12.8	▲ 15.1 (▲ 38.4)
卸売	▲ 30.5	▲ 39.5	▲ 43.3	▲ 34.3	▲ 36.3	▲ 24.1	▲ 13.3 (▲ 26.9)
小売	▲ 30.2	▲ 51.2	▲ 45.7	▲ 37.9	▲ 35.9	▲ 30.0	▲ 18.7 (▲ 33.6)
サービス	▲ 33.0	▲ 27.7	▲ 34.9	▲ 32.8	▲ 36.2	▲ 23.3	▲ 16.4 (▲ 37.2)

《売上（受注・出荷）ＤＩ（全産業・前年同月比）の推移》



【採算の状況についての判断】

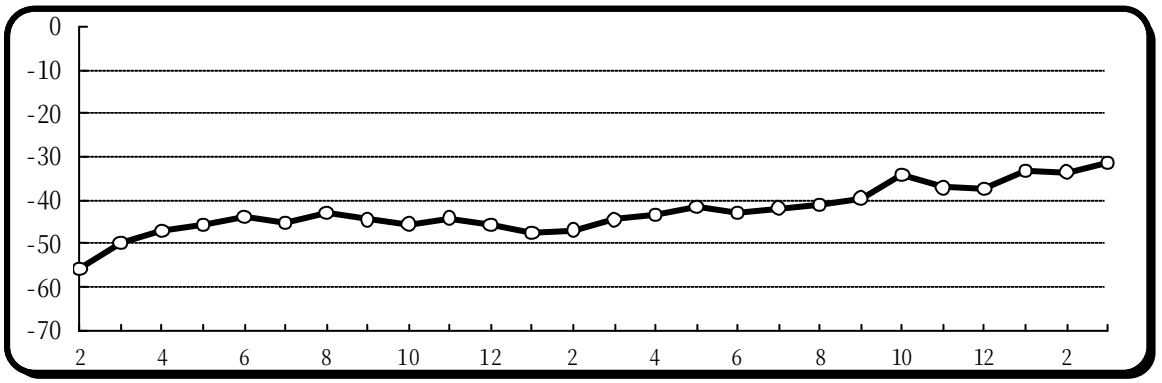
○　採算面では、ＤＩ値のマイナス幅は製造を除く４業種で前月水準より縮小したため、全産業合計の採算ＤＩは２．２ポイント縮小して▲３１．４となり、２カ月ぶりにマイナス幅が縮小した。

○　向こう３カ月(４月～６月)の先行き見通しについては、全産業合計の採算ＤＩ（今月比ベース）が▲２５．１と、昨年同時期の先行き見通し（▲３８．６）に比べて改善している。

採算ＤＩ（前年同月比）の推移

	１５年 １０月	１１月	１２月	１６年 １月	２月	３月	先行き見通し ４～６月
全産業	▲ 34.2	▲ 37.1	▲ 37.4	▲ 33.3	▲ 33.6	▲ 31.4	▲ 25.1 (▲ 38.6)
建設	▲ 54.4	▲ 55.8	▲ 55.3	▲ 49.3	▲ 52.9	▲ 52.7	▲ 46.9 (▲ 54.2)
製造	▲ 28.5	▲ 25.3	▲ 27.3	▲ 23.2	▲ 24.3	▲ 24.9	▲ 25.1 (▲ 40.8)
卸売	▲ 30.5	▲ 35.2	▲ 43.9	▲ 32.5	▲ 28.6	▲ 28.3	▲ 17.5 (▲ 28.8)
小売	▲ 27.7	▲ 43.1	▲ 36.7	▲ 32.1	▲ 30.4	▲ 27.2	▲ 19.0 (▲ 31.1)
サービス	▲ 36.5	▲ 31.0	▲ 34.5	▲ 35.1	▲ 36.7	▲ 30.4	▲ 20.7 (▲ 38.7)

《採算ＤＩ（全産業・前年同月比）の推移》



（参考）

資金繰りＤＩ（前年同月比）の推移

	１５年 １０月	１１月	１２月	１６年 １月	２月	３月	先行き見通し ４～６月
全産業	▲ 28.3	▲ 27.4	▲ 28.3	▲ 25.9	▲ 26.7	▲ 26.5	▲ 22.7 (▲ 34.7)
建設	▲ 44.6	▲ 41.7	▲ 44.2	▲ 41.0	▲ 43.0	▲ 46.6	▲ 42.6 (▲ 50.4)
製造	▲ 24.3	▲ 21.7	▲ 23.5	▲ 20.1	▲ 22.5	▲ 21.9	▲ 18.3 (▲ 36.7)
卸売	▲ 21.3	▲ 22.9	▲ 28.4	▲ 22.0	▲ 23.9	▲ 22.6	▲ 20.8 (▲ 27.7)
小売	▲ 26.1	▲ 26.6	▲ 25.4	▲ 26.0	▲ 21.4	▲ 21.2	▲ 17.0 (▲ 28.4)
サービス	▲ 26.5	▲ 26.0	▲ 25.3	▲ 22.8	▲ 26.3	▲ 24.3	▲ 21.3 (▲ 32.2)

ＤＩ＝（好転の回答割合）－（悪化の回答割合）

【前年同月比ＤＩ】建設を除く４業種で悪化超感が弱まり、全産業合計でも２カ月ぶりに弱まる。
【先行き見通しＤＩ】全業種で昨年同時期に比べて悪化超感が弱まり、全産業合計でも弱まる見通し。

仕入単価ＤＩ（前年同月比）の推移

	１５年 １０月	１１月	１２月	１６年 １月	２月	３月	先行き見通し ４～６月
全産業	▲ 5.4	▲ 3.2	▲ 4.4	▲ 7.6	▲ 9.7	▲ 10.8	▲ 9.8 (▲ 8.0)
建設	▲ 1.5	▲ 1.8	▲ 3.3	▲ 6.7	▲ 6.2	▲ 12.2	▲ 15.9 (▲ 7.1)
製造	▲ 14.1	▲ 14.3	▲ 16.2	▲ 20.0	▲ 23.9	▲ 26.2	▲ 21.6 (▲ 17.5)
卸売	▲ 0.6	8.6	9.3	▲ 3.6	▲ 6.6	▲ 10.3	▲ 6.1 (▲ 7.5)
小売	0.4	2.1	2.0	2.8	0.4	1.0	1.0 (1.0)
サービス	▲ 7.8	▲ 3.2	▲ 5.3	▲ 9.1	▲ 10.5	▲ 7.5	▲ 7.5 (▲ 9.7)

ＤＩ＝（下落の回答割合）－（上昇の回答割合）

【前年同月比ＤＩ】小売、サービスを除く３業種で上昇超感が強まり、全産業合計でも４カ月連続で強まる。
【先行き見通しＤＩ】卸売、サービスで昨年同時期に比べて上昇超感が弱まり、小売で横ばいだったが、建設、製造で強まったため、全産業合計でも強まる見通し。

従業員ＤＩ（前年同月比）の推移

	１５年 １０月	１１月	１２月	１６年 １月	２月	３月	先行き見通し ４～６月
全産業	▲ 9.3	▲ 10.1	▲ 9.5	▲ 10.8	▲ 10.0	▲ 8.0	▲ 9.8 (▲ 18.7)
建設	▲ 22.7	▲ 23.4	▲ 21.5	▲ 26.6	▲ 27.5	▲ 26.8	▲ 29.3 (▲ 34.2)
製造	▲ 10.9	▲ 11.2	▲ 8.7	▲ 11.5	▲ 9.1	▲ 6.0	▲ 9.0 (▲ 23.0)
卸売	▲ 9.6	▲ 12.3	▲ 11.0	▲ 15.1	▲ 9.6	▲ 11.4	▲ 7.9 (▲ 19.6)
小売	▲ 4.6	▲ 5.8	▲ 5.8	▲ 5.5	▲ 4.1	▲ 2.7	▲ 4.4 (▲ 9.8)
サービス	▲ 3.8	▲ 3.7	▲ 6.3	▲ 4.0	▲ 6.6	▲ 2.3	▲ 3.9 (▲ 13.9)

ＤＩ＝（不足の回答割合）－（過剰の回答割合）

【前年同月比ＤＩ】卸売を除く４業種で過剰超感が弱まり、全産業合計でも２カ月連続で弱まる。

【先行き見通しＤＩ】全業種で昨年同時期に比べて過剰超感が弱まり、全産業合計でも弱まる見通し。

【平成１６年３月の景気キーワード】

○　回復への期待感

今月も、製造業を中心に業況は好調との声が多く、「機械部品の製造・加工等が好調で、売上、業況ともに好転。短納期で技術力を必要とする製品などは、まだアジア各国に対して日本が優位にある」（館山・金属加工機械製造）、「輸送機器関連をはじめとして増産傾向にある一部企業では、設備投資を計画している」（高崎・自動車、附属品製造）、「全体的に上昇傾向」（青梅・産業用電気機械製造）といった声が寄せられている。また、「中古車を中心に、新卒者の購買意欲が旺盛」（釧路・自動車小売）、「単なる低価格から、値頃感のある商品へのニーズの移行が出始めており、個人消費の回復傾向がみられる」（浦和・百貨店）、「白物家電の買い替え需要が上向き傾向」（京都・百貨店）、「売上、客数とも増加」（姫路・商店街）、「３月になり、人事異動等もあり、昨年に比べ多少活気が出てきた」（北九州・食堂、レストラン）、「業況は天候の寒暖の影響を受けてきたが、今後暖かくなれば全体的にもっと良くなるのではと期待している」（伊那・商店街）と、個人消費の改善や先行きに期待する声が寄せられている。

○　先行き不透明感

依然として、景気の先行きへの不透明感を訴える声も根強く、建設、製造からは、「事業者の１０％の業績は良いが、９０％は仕事が減っている」（鎌倉・塗装工事）、「公共工事の予算減が、平成１６年度もまともに影響しそうな状況」（上砂川・一般工事）、「為替レートが不安定なため、決算時点でのレートが読めず、不安材料になっている」（茅野・電子部品製造）と、公共事業の減少や為替の先行きへの不安の声が寄せられている。卸売、小売、サービスからは、「官民とも需要の低迷、卸抜きの流通形態の浸透により、厳しい状態が続いている」（帯広・各種商品卸売）、「大都市圏では景況感が若干改善されたと言うが、地方都市の消費は落ちたままで、まだまだ全般的に良くなってはいない」（武生・百貨店）、「売上の推移に安定感がない」（名古屋・ソフトウェア）と、業況は改善していないとの声が寄せられている。

○　仕入コスト上昇

素材関連を中心に仕入コストの上昇を訴える声が多く寄せられている。「鋼材関係がメーカーの段階で値上がりしており、今後、卸・小売段階への波及が予想される」（秩父・一般工事）、「設備資材、特に鉄関係が高騰し、製品も不足しているため工期の遅れが懸念される」（焼津・土木工事）、「原材料の鋼材は、大幅な値上がりとともに入荷に時間がかかる状況で、受注量が増加しても採算は向上しない」（北上・電気機器製造）、「素材が値上がり傾向にあるが、メーカーからは値下げ要望があり、コスト競争力の強化が必要」（新井・電子部品製造）、「段ボール紙の仕入値が騰がり続けている一方、価格転嫁はできない」（西宮・酒類製造）といった声が寄せられている。また、「豚、鶏肉の仕入値が騰がっている」（武蔵野・食堂、レストラン）と、ＢＳＥ、鳥インフルエンザの影響についてのコメントも寄せられている。

【景気キーワードの推移】

年　月	景気キーワード		
１６年　１月	回復への期待感	先行き不透明感	食品安全性問題
２月	回復への期待感	先行き不透明感	仕入コスト上昇
３月	回復への期待感	先行き不透明感	仕入コスト上昇

※景気キーワードは、調査対象組合の各月におけるトピック・関心事項などに関しての自由回答をまとめたもの。

【産業別概況】

産　　業	概　　況
建　　設	業況、採算ＤＩは２カ月ぶりにマイナス幅が縮小し、売上ＤＩは２カ月ぶりに拡大した。「年度末になり受注回復を期待していたが、一部の業種で少し増えたのみで、大多数の業種は受注減となっている」（建築工事）「公共、民間工事とも低迷しており、厳しい状況が続いている」（建築工事）、「依然として工事受注量、単価とも低迷」（一般工事）、「昨年度から売上が１/３に減少し、来年度の公共事業予算も見通しは厳しく今年度並みと予想」（一般工事）と、引き続き厳しい状況を訴える声が寄せられており、「資材価格急騰の動きがあり、民需への影響が懸念される」（建築工事）と、仕入コスト上昇の悪影響を懸念する声も寄せられている。
製　　造	業況ＤＩは２カ月連続でマイナス幅が縮小し、売上ＤＩは２カ月ぶり、採算ＤＩは２カ月連続で拡大した。「今月の石灰総出荷量は前年同月比で約５％増」（窯業、土石）、「前月に続き回復基調にある」（有機化学製品）、「デジタルカメラ関係で、新製品の生産が見込まれる」（電子部品）と、業況は好調との声の一方、「海外での生産増加により、国内の生産、販売が低迷しており、新分野への進出も思うようにできない状況で雇用も過剰気味」（金物類）、「輸入サンダルの増加による影響から、低価格帯のサンダル生産を海外に移行する企業が多く、組合員も倒産・廃業・脱会が年々増えている状況」（ゴムプラスチック履物）と、海外製品との競争激化や、「材料の値上がり分を納入価格に転嫁できない」（金属加工機械）と、仕入コスト上昇により採算が悪化との声が寄せられている。
卸　　売	業況ＤＩは３カ月ぶりにマイナス幅が拡大し、売上ＤＩは２カ月ぶり、採算ＤＩは３カ月連続で縮小した。「卒業、入学シーズンに入り業況は好転」（食料・飲料）、「婦人服が好調」（衣服、日用品）といった声がある一方、「まだ景気が上向いている実感が得られない」（衣服、日用品）との声や、「素材や原材料の値上がりが続くと思われ、今一番の懸念材料となっている」（各種商品）と、仕入れコストの上昇を懸念する声が寄せられている。また、「牛肉、鳥肉等の食肉の安全性問題がおさまれば、消費は伸びると思われる」（各種商品）とのコメントも寄せられている。
小　　売	業況、売上、採算ＤＩとも４カ月連続でマイナス幅が縮小した。「春物衣料や新入学用品の好調により売上が増加し、明るい兆しが見える」（百貨店）、「ホワイトデーはバレンタインデーに引き続き有名ブランドを中心に人気が集まり、大きく売上を伸ばすことができた」（百貨店）といった声の一方、「来店客数が減少し、対前年比７～８％の売上減」（その他小売）、「移転と廃業による商店街からの退会が続く」（商店街）、「店舗によって売上に差は見えるものの、全体的にはほぼ例年並みで、来客数はわずかに増えてきているように感じるが、個人消費が回復するまでには、まだ時間がかかるように感じる」（百貨店）との声が寄せられている。
サービス	業況ＤＩは３カ月連続、売上ＤＩは２カ月ぶり、採算ＤＩは４カ月ぶりにマイナス幅が縮小した。「ＩＴ関連業界を中心に事務系人材の派遣需要が強まってきており、工場からの依頼も発生している状況」（人材派遣）、「３月に入って観光客や歓送迎会の客が増えてきて、なんとなく業界全体に持ち直しの兆しが見えてきたような感がある」（食堂、レストラン）といった声の一方、「客足は遠のいており、今後、桜の開花に合わせ、観光客の入り込みに期待している」（一般飲食店）、「卒業式シーズンなので売上増を期待したが、来客数の減少が目立ち、卒業と同時に就職・進学のために若い人が町を出て行き、人口減も先行き不安材料」（理容）、「団体客のバスでの入り込みは多くなっているが、低単価で稼働率を上げているだけなので、採算は厳しい」（旅館）との声が寄せられている。

（参考）

【ブロック別概況】

○　ブロック別の業況ＤＩ（前年同月比ベース）は、北海道、東海を除く７ブロックでマイナス幅が縮小したため、全ブロック合計でも３カ月連続で縮小した。

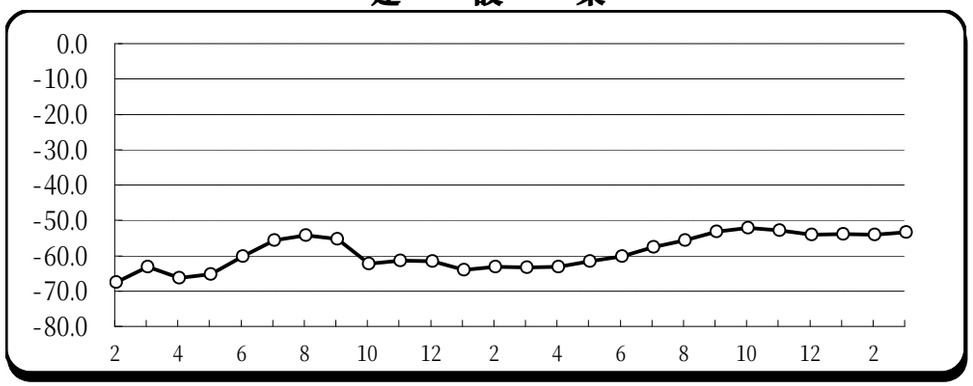
○　ブロック別の向こう３カ月（４月～６月）の業況の先行き見通しは、全ブロックで昨年同時期と比べ改善している。

ブロック別・全産業業況ＤＩ（前年同月比）の推移

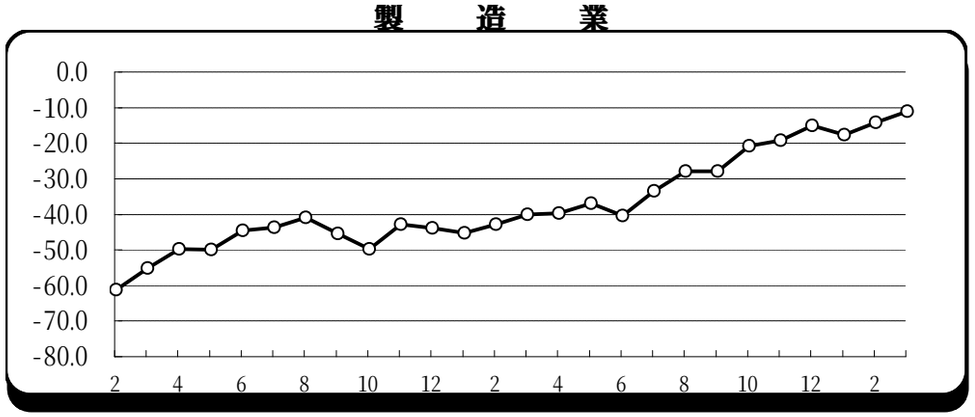
	１５年 １０月	１１月	１２月	１６年 １月	２月	３月	先行き見通し ４～６月
全　国	▲ 35.8	▲ 38.7	▲ 39.0	▲ 36.8	▲ 33.3	▲ 30.2	▲ 24.8 (▲ 45.7)
北海道	▲ 34.5	▲ 37.7	▲ 33.6	▲ 29.7	▲ 30.1	▲ 36.2	▲ 30.2 (▲ 41.7)
東　北	▲ 41.5	▲ 41.8	▲ 48.9	▲ 43.7	▲ 36.7	▲ 33.5	▲ 25.9 (▲ 52.0)
北陸信越	▲ 33.1	▲ 35.7	▲ 37.0	▲ 31.8	▲ 28.3	▲ 24.6	▲ 14.5 (▲ 44.3)
関　東	▲ 28.4	▲ 35.7	▲ 33.9	▲ 31.1	▲ 28.5	▲ 27.5	▲ 21.7 (▲ 45.5)
東　海	▲ 31.3	▲ 36.1	▲ 32.1	▲ 35.6	▲ 27.7	▲ 31.6	▲ 27.0 (▲ 46.0)
近　畿	▲ 42.9	▲ 45.0	▲ 43.6	▲ 43.9	▲ 39.2	▲ 32.4	▲ 28.3 (▲ 45.6)
中　国	▲ 36.2	▲ 36.6	▲ 44.4	▲ 37.4	▲ 38.2	▲ 33.3	▲ 30.3 (▲ 51.9)
四　国	▲ 40.4	▲ 39.6	▲ 44.2	▲ 44.6	▲ 48.6	▲ 39.8	▲ 31.9 (▲ 40.7)
九　州	▲ 41.6	▲ 40.1	▲ 38.9	▲ 39.6	▲ 31.6	▲ 22.9	▲ 21.9 (▲ 43.3)

業況ＤＩ（前年同月比）の推移（全国）

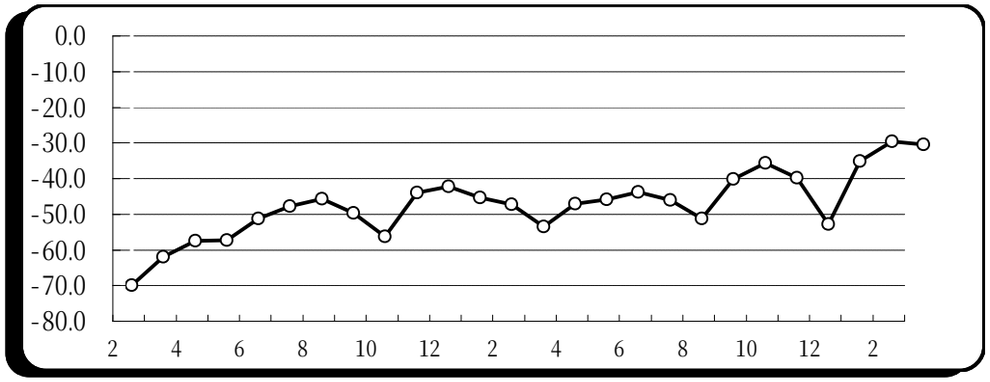
建　　設　　業



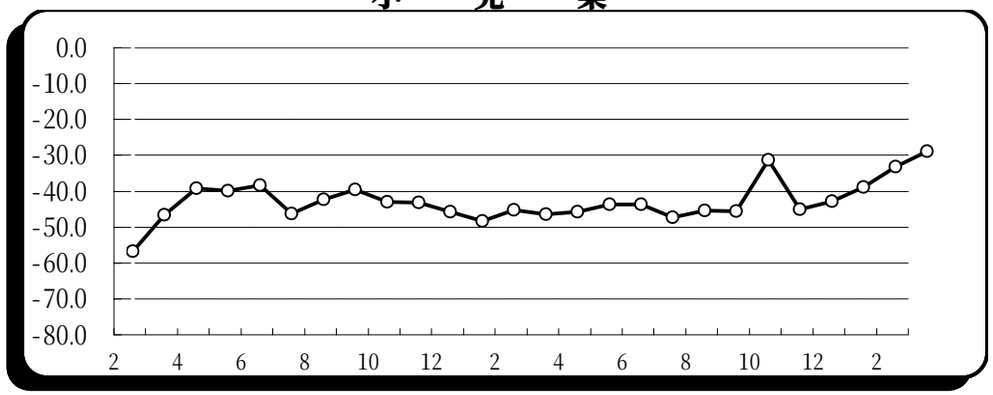
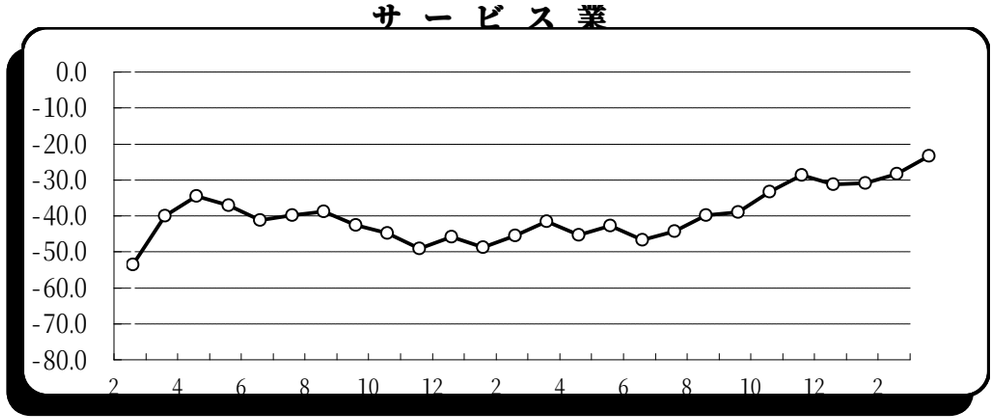
製　　造　　業



卸　　売　　業



小　　売　　業



サ　ー　ビ　ス　業